

先祖供養は妙智會の根本教義の一つです。会主さまが残された尊い教えが「先祖供養」と「お導き」です。会主さまは「お経を上げないといけませんよ。良いことを望むならばお経を上げなさい」とおっしゃいました。

しかし、私たちは朝夕しっかりとお経を上げているかというとなかなかしていませんね。それでは結果を頂けるはずありません。

そして、お経を上げる中で、先祖・流産児に対して成佛を願うことは素晴らしいことです。しかし、その前に「自分」という存在を考えるべきだと思います。会主さまが望んでいらっしゃった「心を直しなさい、人格を直しなさい」という行いをせずに、お経を上げているのではないかと思うのです。

供養というのは「回向」です。回向は先祖から来るものではなく、自分から先祖・流産児に捧げるのが回向です。毎日自分の心を直して、性格を良くしながら、お経を捧げるのです。何十年とお経を上げていても、根性を直さず、心も直さずにいると、年をとってかえって頑固になって、みんなに嫌われる。そういう人間の回向を、ご先祖さまも流産児も喜びません。懺悔もせず、自分を良くしようと思わない。それではいけません。

極端な言い方をしますと、私たちのお経は「機械」のお経になっています。妙智會の正しいお経は、人間が上げるお経です。人間である自分を通して、先祖・流産児に捧げなければいけません。

大導師さまが、お年を召した方たちに「お題目だけでも心を込めていれば、それで良いのだよ」とおっしゃったことがあります。寝たきりの方、ご病気の方にお題目だけでもいいから上げなさいと

いうご指導です。そこには人間としての心を込めたお題目を捧げるという意味があるのであって、お題目だけでいいんだ、その方が楽だと思っははいけません。心を込めてお経を上げましょう。お題目をあげましょう。その心を込めるというのは、人間だからということです。

昔、私は悩みながらお経を上げていたことがありました。正直、その時は先祖のことを考えられなかったので「こんなお経でいいのでしょうか」と会主さまに伺いました。すると「悩んで苦しんでるのも人間だから、お経は届いてるよ」とおっしゃってくださったのです。これはとても深いご指導です。

我々は機械ではありません。人間としていろんな感情がある中でお経を上げる、それが回向だと会主さまがご指導くださったのです。先祖はわかってくれるのです。「自分と同じように苦しんでる子孫がお経上げてくれたんだな、頑張りなさい」となるのです。

また例えば、お経を上げて足が痛い、早く終わらないかなという根性が出てしまう事もあります。それでもお経を上げるんです。足が痛いことをお経を上げない言い訳にははいけません。足が痛くてもお経を上げている姿を見て、先祖は喜ぶのです。

だから、今の自分がお経上げてもどうなのだろうかと思うことより、苦しんでもつらくても、まずはお経を上げてください。葛藤することもあるかと思えます。ですが、どんな時でも、どんな感情でも、お経を上げてみることです。それが人間としてのお経です。

妙智會の皆さんは、回向である先祖供養をするのです。それが会主さまの教えです。機械のお経ではなく人間のお経を上げるのです。どんなときでもあげる、それを今日から行ってみてください。